

複式第3・4学年 国語科学習指導案

Ⅱ組 3年 男子4名 女子4名
4年 男子3名 女子4名 計15名
指導者 古園 正樹

- 1 単元 読んで、かんじたことを発表しよう（教材「もうすぐ雨に」光村3年上）
場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう（教材「一つの花」光村4年上）

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第3学年)

この期の子どもたちは、これまで「お話を読んで、かんそうを書こう」で、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えを伝える能力を身に付けてきている。

そこでここでは、出来事に気を付けて、登場人物の行動や気持ちの変化を読み取る能力を高めると共に、発表を聞き合いながら解釈の多様性を認め合い、自らの読書生活に進んで生かそうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元を設定した。

この学習は、場面の移り変わりに即して登場人物の行動や気持ちを読んで、考えたことを話し合う「読んで考えたことを話し合おう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「もうすぐ雨に」は、「ぼく」と様々な生き物の間で起こる不思議な出来事や「ぼく」の優しさ、相手の気持ちが分かるようになる成長の姿を描いた物語文である。また、物語の組み立てが起承転結で構成されており、「ぼく」と生き物たちの間に起こる不思議な出来事の移り変わりをとらえやすい教材である。

本単元では、不思議な出来事や大騒ぎが起こる本を読んで感じたことを発表することを、単元を貫く言語活動として設定する。そして、教材「もうすぐ雨に」を、出来事の展開や登場人物の気持ちの変化など、読み取りから感じたことを発表させ、一人一人の感じ方が違うことをとらえさせる。

具体的にはまず、試し作りとして、不思議な出来事や大騒ぎが起こる本を読んで感想を書かせ、書いた内容や書き方で困ったことを友達同士で交流しながら整理させ、物語の読み方や感想の発表についての課題意識をもたせる。

次に、「もうすぐ雨に」を読んで、「ぼく」の

(第4学年)

この期の子どもたちは、これまで「読んで、考えたことを発表しよう」で、場面ごとの主人公の会話や行動に着目しながら気持ちを想像する能力を身に付けている。

そこでここでは、場面ごとの登場人物の気持ちや情景など、叙述を基に読み取る能力を高めると共に、物語の紹介したい部分とその理由を明確にして伝えようとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元を設定した。

この学習は、優れた表現に着目して、物語の魅力や伝え合う「すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう」の学習へと発展するものである。

教材「一つの花」は、戦時下という特殊な状況にありながら、幼いゆみ子を中心に、父と母それぞれが我が子の幸せを願い、強い家族の絆を描いた物語文である。また、登場人物が3人であり、戦争中の生活や父の出兵、戦争後の3つの場面からなるため、場面の移り変わりに注意しながら登場人物の気持ちの変化をとらえやすい教材である。

本単元では、戦争や平和についてかかれた本を読んで心に残ったことを基に友達に内容を紹介することを、単元を貫く言語活動として設定する。そして、教材「一つの花」を、強く心に残った言葉や内容を誰かに紹介するためにはどのようにすればよいかを考えながら読み進める。

具体的にはまず、試し作りとして、戦争や平和について書かれた本を選んで読み、感想を紹介しながらうまくいったことやうまくいかなかったことを友達同士で交流しながら整理させ、物語の読み方や本の紹介の仕方についての課題意識をもたせる。

行動や会話に着目しながら、出来事の展開や登場人物の気持ちの変化を読み取らせる。その際、自分に同じような出来事が起こったらどうするだろうという視点で、「ぼく」の行動や気持ちに寄り添い、感じたことを発表させる。

さらに、並行読書した本について、起承転結を意識しながらまとめた感想を交流する活動を行い、自他の感じ方に違いがあることに気付かせ、達成感・成就感を味わわせる。

なお、同学年における話し合いを充実させるために、展開時の間接指導時にはガイド学習を行う。

このような学習を通して、子どもたちは相手や目的に応じて物語を読むことのよさを実感し、日頃の読書生活に生かそうとする意欲を高める。また、進んで友達とかかわることで、一人一人が自らの思いや考えを連続・発展させようとする態度を育成することができる。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの、本単元における実態以下の通りである。(数字は人数、複数回答)

第3学年	第4学年
① 初発の感想 <input type="checkbox"/> 動物たちが話すのがふしぎ (5) <input type="checkbox"/> 自分も動物たちと話してみたい (4) <input type="checkbox"/> トラノスケはどこへ行ったのか (2)	① 初発の感想 <input type="checkbox"/> ゆみ子の性格 (元気・わがまま) (3) <input type="checkbox"/> お父さんが戦争に行って悲しい (2) <input type="checkbox"/> 二度と戦争をしてはいけない (2)
② 不思議な出来事について <input type="checkbox"/> 生き物の声が聞こえるようになった (6) <input type="checkbox"/> 雨が降ることが予測できた (1)	② 題名「一つの花」について <input type="checkbox"/> お父さんがゆみ子に渡したから (4) <input type="checkbox"/> 分からない (3)
③ 「ぼく」の変化 <input type="checkbox"/> 生き物と会話ができる (5) <input type="checkbox"/> 分からない (3)	③ 戦争に関する知識の情報源 <input type="checkbox"/> 本…ちいちゃんのかげおくり (7) その他 (2) <input type="checkbox"/> 家族 (4) <input type="checkbox"/> テレビ番組 (3)
④ 感想の発表に用いた言葉 <input type="checkbox"/> おもしろい (5) <input type="checkbox"/> すごい (4) <input type="checkbox"/> きれい (2) <input type="checkbox"/> やさしい (6) <input type="checkbox"/> こわい (5)	④ 紹介したい内容 <input type="checkbox"/> 登場人物 (7) <input type="checkbox"/> 心に残った出来事 (4) <input type="checkbox"/> あらすじ (2) <input type="checkbox"/> 感想 (2)

子どもたちの多くは、主人公「ぼく」に起こった不思議な出来事に興味をもっている。しかし、出来事の移り変わりをとらえている子どもは少ない。(①②) また、「ぼく」の変化について、生き物と会話できるととらえた子どもが多く、「ぼく」の生き物に対する気持ちの変化に気付いた子どもはいない。(③) これは、物語を読む際、不思議な出来事に対する関心が高く、登場人物の気持ちの変化にまで目を向けられていないからだと考える。友達の発表を聞いた感想に用いる言葉は全体的に偏りがあり、同じような言葉を用いる傾向が見られる。(④)

(4) 指導上の留意点

ア 出来事の展開に注意しながら「ぼく」の生き物に対するかかわりをとらえさせるために、物語を四つの場面に分けて、「ぼく」の行動や会話を話し合わせる。

イ 語彙を増やし、読んだ後の感じ方には違いがあることに気付かせるために、感想に用いる言葉の一覧表を掲示し、子どもが学び合いの中で用いた言葉を、叙述や日常生活の経験と関係付けさせる。

次に、「一つの花」を読んで、ゆみ子や両親の行動や会話に着目しながら、登場人物の気持ちや世の中の様子を読み取らせる。そして、戦争中と父の出兵、戦争後の3つの場面を比較させ、題名に込められた作者の思いを考えさせる。

さらに、並行読書してきた本の、「心に残った言葉や文」「作品の特徴」などを紹介する活動を行い、自他の紹介の変容に気付かせ、達成感・成就感を味わわせる。

なお、同学年における話し合いを充実させるために、展開時の間接指導時にはガイド学習を行う。

このような学習を通して、子どもたちは相手や目的に応じて物語を読むことのよさを実感し、日頃の読書生活に生かそうとする意欲を高める。また、進んで友達とかかわることで、一人一人が自らの思いや考えを連続・発展させようとする態度を育成することができる。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの、本単元における実態以下の通りである。(数字は人数、複数回答)

第3学年	第4学年
① 初発の感想 <input type="checkbox"/> 動物たちが話すのがふしぎ (5) <input type="checkbox"/> 自分も動物たちと話してみたい (4) <input type="checkbox"/> トラノスケはどこへ行ったのか (2)	① 初発の感想 <input type="checkbox"/> ゆみ子の性格 (元気・わがまま) (3) <input type="checkbox"/> お父さんが戦争に行って悲しい (2) <input type="checkbox"/> 二度と戦争をしてはいけない (2)
② 不思議な出来事について <input type="checkbox"/> 生き物の声が聞こえるようになった (6) <input type="checkbox"/> 雨が降ることが予測できた (1)	② 題名「一つの花」について <input type="checkbox"/> お父さんがゆみ子に渡したから (4) <input type="checkbox"/> 分からない (3)
③ 「ぼく」の変化 <input type="checkbox"/> 生き物と会話ができる (5) <input type="checkbox"/> 分からない (3)	③ 戦争に関する知識の情報源 <input type="checkbox"/> 本…ちいちゃんのかげおくり (7) その他 (2) <input type="checkbox"/> 家族 (4) <input type="checkbox"/> テレビ番組 (3)
④ 感想の発表に用いた言葉 <input type="checkbox"/> おもしろい (5) <input type="checkbox"/> すごい (4) <input type="checkbox"/> きれい (2) <input type="checkbox"/> やさしい (6) <input type="checkbox"/> こわい (5)	④ 紹介したい内容 <input type="checkbox"/> 登場人物 (7) <input type="checkbox"/> 心に残った出来事 (4) <input type="checkbox"/> あらすじ (2) <input type="checkbox"/> 感想 (2)

子どもたちの多くは、ゆみ子やお父さんに着目したり、戦争に対する考えをもったりしている。(①) しかし、題名に対する見方は、お父さんの行動に着目したものが多く、物語の主題にかかわる考えはない。(②) これは、キーワードとなる言葉に着目しながら物語を読む経験が少ないからだと考える。戦争に関する知識の情報源は、既習の「ちいちゃんのかげおくり」からのものがほとんどで、戦争や平和に関する読書経験は少ない。(③) 紹介したい内容は、登場人物や心に残った出来事が多く、情景に着目したものは少ない。(④)

(4) 指導上の留意点

ア 場面ごとの登場人物の気持ちや情景をとらえさせるために、人物の行動や情景を表す叙述からキーワードとなる言葉を出させ、それらを比較しながら共通点や相違点を話し合わせる。

イ 紹介したい本の内容とその理由を明確にするために、自分の考えの根拠となる叙述を複数集めて関係付けさせる。

ウ 学習に対する達成感・成就感を味わわせるために、不思議な出来事が起こる本や大騒ぎになる本を並行読書させ、出来事や中心人物に対する考えや感想を、伝え合わせる。

ウ 学習に対する達成感・成就感を味わわせるために、並行読書でまとめた自分の考えを、読書発表会の前後で比較させ、自他の読みの深まりを伝え合わせる。

エ 単元の導入と終末で一斉指導を行う。また、間接指導時に、互いの考えを高めるために「問い返し方」を発揮させる場を設定し、相手の考えを要約したり置き換えたりする話し合いを行わせる。

3 目 標

- | | |
|--|---|
| <p>(1) 不思議な出来事が起こる本の読書をし、観点を基に感想をもち、友達と交流しようとするができる。</p> <p>(2) 「ぼくの気持ち」や「不思議な出来事」などの観点で自他の感想を比較することで、自分の感想を広めたり深めたりすることができる。</p> <p>(3) 文章を読んで考え、まとめたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。</p> <p>(4) 異学年の交流を通して、3年生は不思議な出来事の展開や主人公の気持ちの変化について感じたことを分かりやすく伝えること、4年生は平和に関する本の感想や作品の特徴を基に、紹介することができる。</p> | <p>(1) 戦争や平和をテーマとし読書をし、心に残った文や感想、考えを基にした紹介をしようすることができる。</p> <p>(2) 「一つの花」という題名が付けられた理由を、キーワードや複数の叙述と関係付けながらとらえることができる。</p> <p>(3) 戦争中と戦争後の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ち、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。</p> |
|--|---|

4 指導計画（第3学年9時間、第4学年9時間）

学習課題・主な学習活動（第3学年）	学習課題・主な学習活動（第4学年）
<p>1 学習意欲の喚起</p> <p>「不思議な出来事が起こる本」を読んで感じたことを発表し、単元の目標を設定する。</p> <p>不思議な出来事が起こる本を読んで感じたことを発表するには、どのように読めばよいのだろうか。</p>	<p>1 学習意欲の喚起</p> <p>「平和」についての自分の考えをまとめて話し合い、単元の目標を設定する。</p> <p>平和についての本を紹介するためには、物語をどのように読めばよいのだろうか。</p>
<p>2～6 限定された範囲での試行 錯誤（本時5/9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の設定を確かめる ○ 『ぼく』の気持ち・出来事の不思議 ○ 感想の発表 <p style="text-align: center;">↓ 並行読書</p>	<p>2～6 限定された範囲での試行 錯誤（本時5/9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の設定を確かめる ○ 父の人柄・世の中の様子 ○ 題名についての話し合い ○ 紹介原稿の作成・紹介 <p style="text-align: center;">↓ 並行読書</p>
<p>7～8 広い範囲での試行錯誤 試行の見直し</p> <p>「おもしろいな」「すきだな」と思ったところを、ぼくの気持ちの変化や出来事などの観点で理由付けすべよ。</p>	<p>7～8 広い範囲での試行錯誤 試行の見直し</p> <p>心に残った言葉や文、感想や考えなどの観点を基に、戦争中と戦争後の移り変わりに注意しながら読めよ。</p>
9 合同読書会	

5 本 時（第3学年：5/9、第4学年：5/9）

(1) 目 標

叙述を基にトラノスケが言おうとしたことを想像する活動を通して、「ぼく」がトラノスケの言おうとしたことが分かった理由を読み取ることができる。

人物の行動や会話、場所の様子に着目して、「一つの花」という題名に込められた作者の思いを読み取ることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、トラノスケが「ぼく」に言おうとした言葉を想像させて、互いの根拠の共通点を問うことで、「ぼく」の気持ちの変化などの考えを引き出しながら展開していく。

本時では、思考の高まりを目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、題名「一つの花」と自分で考えた題名を提示し、作者がこの題名にした理由を問うことで、「平和への願い」や「戦争の悲しさ」などの考えを引き出しながら展開していく。

(3) 実 際 ○直接指導時の具体的な働きかけ ●間接指導に入る直前の教師の具体的な働きかけ

教師の具体的な働きかけ	位置	主な学習活動 (第3学年)	主な学習活動 (第4学年)	教師の具体的な働きかけ
<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を焦点化させるために、「ぼく」の行動や気持ちに着目して音読させ、疑問に思ったことを話し合わせる。 ● トラノスケの言いたかったことが分かった理由をとらえさせるために、トラノスケが言おうとしたことを、叙述を基に話し合わせる。 ○ 「ぼく」がトラノスケを家族のように考えていることに気付かせるために、子どもたちから出された考えの共通点を話し合わせる。 ● 「ぼく」のトラノスケに対する愛情に気付かせるために、「なぜ、トラノスケの言いたいこととはよく分かったのか。」と問い、考えを話し合わせる。 ○ 本時で身に付けた読みの力を確かめさせるために、物語を読んで「すきな」「おもしろい」と思ったところを、他の場面と比較しながら感想カードに書かせる。 	<p>(分) 1. 1 3 5</p>	<p>1 本時の学習課題を設定する。</p> <p>(1) 教材文をみんなで音読する。</p> <p>(2) 本時の学習課題を設定する。</p> <p>なぜ、「ぼく」はトラノスケの言いたいことが分かったのだろうか。</p> <p>2 学習の流れを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまで意識してきた読み方 ・ 「ひとみ」学習 <p>3 「ぼく」がトラノスケの言いたいことが分かった理由について話し合う。</p> <p>トラノスケが「ぼく」に言おうとしたことを想像しよう。</p> <p>ひ やれやれ、やっとう事か終わったよ。</p> <p>と ぼらね。ぼくが言ったように雨がふったのだろ。</p> <p>み ありがたい。やさしいところがあるじゃないか。</p> <p>叙述 トラノスケを、ごしごし歩いてやった。</p> <p>叙述 もうすぐ雨になるんだから。</p> <p>【共通点】「ぼく」はトラノスケの気持ちを考えているから。</p> <p>トラノスケとはいもいっしょにくらしているから、他の生き物たちにはない愛情があるよ。</p> <p>4 本時のまとめを行う。</p> <p>ひ 「ぼく」は、トラノスケのことを今まで以上に愛情をもって考えられるようになったから。</p> <p>5 感想カードに自分の感想を書こう。</p> <p>6 本時の学習の感想を交流する。</p> <p>トラノスケの言葉をいろいろ想像することができました。友達のことを聞くことができたからだと思います。</p>	<p>1 本時の学習課題を設定する。</p> <p>(1) 自分だったら作品にどのような題名をつけるか交流する。</p> <p>(2) 学習課題を設定する。</p> <p>なぜ、作者は「一つの花」という題名にしたのだろうか。</p> <p>2 学習の流れを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまで意識してきた読み方 ・ 「ひとみ」学習 <p>3 「一つの花」という題名が付けられた理由について話し合う。</p> <p>ひ ぼくは「コスモス」という題名にしたけれど、なぜ、作者は「一つの花」にしたのか、理由を考えよう。</p> <p>と 家族の大切さを伝えたかったからだと思う。</p> <p>み 戦争中の貧しさを伝えたかったからだと思う。</p> <p>叙述 コスモスのトンネルをくぐって出てきました。</p> <p>叙述 さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだようー。</p> <p>叙述 戦争中の貧しさを伝えたかったからだと思う。</p> <p>比較 一つだけだよ。一つだけ。</p> <p>【共通点】平和への願い</p> <p>平和への願いを伝えたいのであれば、「コスモスのトンネル」という題名ではいけないのかな。</p> <p>4 紹介カードに自分の考えを書こう。</p> <p>5 本時のまとめを行う。</p> <p>ひ 作者は、平和への願いや戦争の悲しさを伝えたいと思ったから。</p> <p>6 本時の学習の感想を交流する。</p> <p>最初は一つのことを思いつかなかったけど、○○さんの考えを聞いて、ほかにも考えがあるということが分かりました。</p>	<p>教師の具体的な働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人の読み方によって題名の付け方にも違いがあることに気付かせるために、「自分だったら、どんな題名にするか」と問い、考えを互いに交流させる。 ○ 課題を焦点化させるために、「君たちが考えた題名でよいのではなかろうか」と問い、その是非を話し合わせることで、作者の意図があることに気付かせる。 ● 叙述を基にした考えを話し合わせるために、作者が題名「一つの花」を付けた理由と根拠となる叙述はどこか。」と問い、小黒板に書かせ、互いの考えを交流させる。 ● 作者の意図に対する見方を広げさせるために、「題名は『コスモスのトンネル』ではいけないのか。」と問い、作者が戦時中の場面の言葉を使った理由を話し合わせる。 ○ 本時で身に付けた読みの力を確かめさせるために、作者が戦時中の場面の言葉を使った理由を話し合わせる。